

ロマンチックな40周年記念アルバム

JM1LZT 富山俊一

私もやっと(?)年齢 60 を 2 年ほど超えたにもかかわらず、未だに「何のものにもなっていない自分」に気付き、愕然、唾然、呆然の毎日です。

一方、私なんかと違い、240 グループがこの 40 年の間に「なしてきたこと」というのは、大量にして高濃度、高密度であったように思えます。

残念ながら、私がリアルに知っているのはわずか 40 分の 2、全史の 5%にすぎません。
しかし、幸いなことに、過日配布された 40 周年記念アルバムの DVD を通じ「そこにいなかったけど、出来ればそこにいたかった」ことを、時系列で見、大いに想像と妄想を膨らますことが出来ました♪

とにかく皆さん若い☆思わず計算しちゃいましたが、80 年代はほとんどの方が 20～

40代だったかと思います。ファッションやクルマのデザインはもちろん、無線機の機種やアンテナの形状（長い！）など、「昭和～平成の記録」としても大変貴重だと思いました。

どの写真を見ても、その中の人々の表情は明るく、今日の疫病禍や経済不況による「なかなか明るくしてもらえない」状況と比べると、思うところ多々でした。

このアルバムを通じ、あらためて「夢見ることが肯定されて、なんだかロマンチックだった時代」が確実にあったのだと気付いちゃいました。

無線を通じた人との出会い。より遠くの人と、より強く出会おうとする衝動。そのための技術探究や行動半径の拡大。

これらをロマンチックと呼ばずして、何がロマンチックでしょう？

40年という時を経て、登場人物達はやや老けて肉体的には若干の衰えもあるかもしれませんが、幸いなことに、私が出会えた「その後の登場人物たち」は、相変わらず、明るくお茶目で、どこかロマンチストであるのみならず、還暦過ぎた私に日々新た

な刺激までを与え続けてくれています。

残念ながら、もう 40 年経った時には、今いる面々は私も含め一緒に歓びを分かち合うことは出来ないかもしれません。しかし、無線を通じ、少なからぬ人々が出逢い、共に過ごした充実した輝ける日々があったのだという事実は、永遠です。

そんな「歴史のロマンのパッケージ」の記念アルバムは、早くも私の家宝です。今なお積み重ねられ続けている新たな歴史の登場人物に、許されるなら私もなるべく、ちょっとだけ頑張ってみたりもしている日々です。

最後になりますが、編集に多大な尽力をされた、斎藤、久保田両 OM に心より感謝を申し上げます。